

長岡市 子どもの貧困対策(子どもナビゲーターの配置)

令和3年度事業説明資料

現状・課題

☆生活実態調査(平成30年度実施)から、貧困が疑われる世帯が全体の約14%と一定数いることが分かった。一方、外見や所持品だけでは実態を把握しきれず、子どもの貧困は見えにくい状況も分かった。

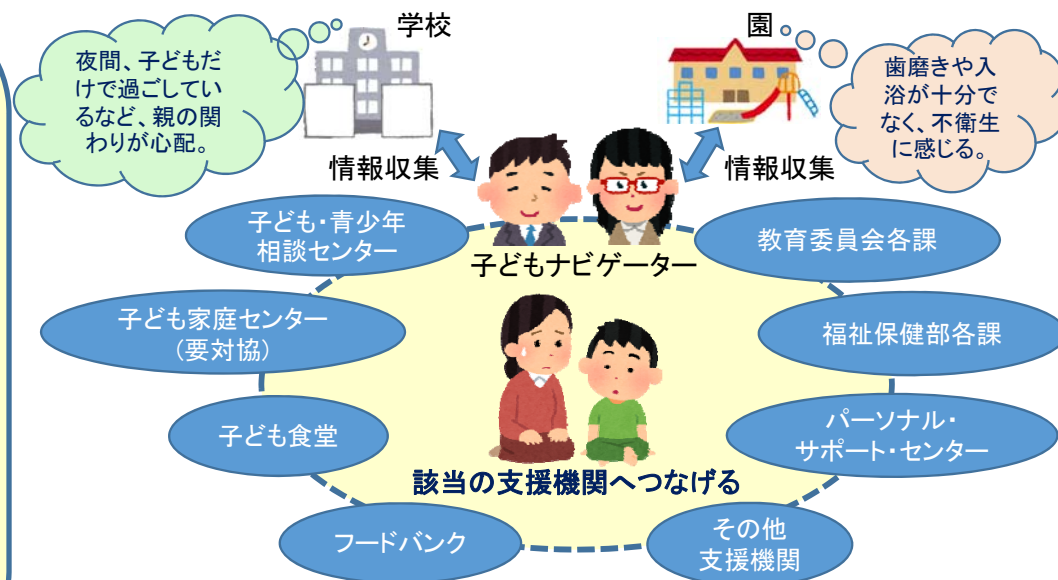
☆学校、保育園等と連携し、見えにくい子どものSOSや、その抱えている課題や困りごとを理解するとともに、支援につなげていく必要がある。

施策の展開

子どもの貧困対策推進計画(令和2～6年度)にのっとり、子どもたちが生まれ育った環境によってその将来が左右されることなく、すべての子どもたちが現在及び未来に夢や希望を持てるよう、包括的な支援体制を構築する。そのために、子どもナビゲーターを2人配置し、情報収集とコーディネート機能の充実を図る。

…子どもナビゲーターの業務と実績…

- 学校、園などから「子どもの貧困(相対的貧困)」の視点での支援が必要な子ども(家庭)の情報を収集する。(親からの愛情や社会的経験、文化的経験の欠如による影響が疑われる事例も含める。)
[把握した事例数(令和2年度) 就学後278件、就学前40件]
- 関係機関と情報を共有し、連携を強化することで、支援が必要な家庭を速やかに該当の関係機関につなげる。
[助言、面談等で関わった延べ件数(令和2年度) 65件(44人)]
[連携を働き掛けた事例数(令和2年度) 21件(27人)]
- 子どもナビゲーターの認知度をあげ、学校、園、保護者、子どもからの相談を受け付ける。
[相談件数(令和2年度) 32件]



関係部署、関係機関連携による支援体制を構築